

実践のまとめ（第2学年 社会科）

長岡市立旭岡中学校 教諭 羽二生 拓也

1 研究テーマ

資料を活用し、主体的・協働的に課題解決をする生徒の育成

2 研究テーマについて

(1) テーマ設定の意図

学習指導要領（平成29年告示）では、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を進めることが示されている。また、社会科においては、主体的に社会の形成に参画しようとする態度や、資料から読み取った情報を基にして社会的事象の特色や意味などについて比較したり関連付けたり多面的・多角的に考察したりして表現する力の育成が不十分であることが指摘されている。私自身これまでの授業を振り返ると、生徒同士の意見交流の機会を設定してきたものの、生徒が主体的に資料から情報を読み取り、読み取った情報を基に仲間とともに多面的・多角的に考察したり表現したりする活動の機会が少なかった。

そこで、本実践では、「資料を活用し、主体的・協働的に課題解決をする生徒の育成」をテーマとして設定した。課題の解決に向けて仲間とともに様々な資料を多面的・多角的に考察して自分の考えを練り上げ、表現する学習活動を行うことを通して、より主体的・協働的に問題を解決しようとする生徒を育成したいと考えた。

(2) 研究テーマに迫るために

① 生徒が主体的に学習に取り組めるような単元構成やワークシートの工夫

生徒自らが社会的事象に関心をもって主体的に追究、解決できるよう、単元の導入時に生徒と一緒に単元を貫く課題と、その課題解決に向けた学習活動の設定を行う。そして、見通しをもって学習に取り組めるよう、単元を貫く課題や課題に対する予想、各時間での振り返りなどを記入できるワークシートを作成し、生徒自身が自らの学びを振り返りながら、主体的に学習できるよう支援していく。

② 資料から読み取った情報を基に、仲間とともに多面的・多角的に考察する活動の充実

資料から読み取った情報を基に、仲間と意見交換することを通して、より多面的・多角的に考察して自分の考えを練り上げ、表現する。そのよさを実感することにより、主体的・協働的に課題を解決しようとする態度を育成する。これらを実現するため、本単元では「ジグソー学習」を設定する。学習班内で資料を分担して読み取り、その後、他の班の同じ資料を分担した生徒と意見交流をすることで、同じ資料でも多面的な見方があることに気が付くことができる。その後、元の学習班に戻り、それぞれの資料から読み取ったことを意見交流することで、多角的に考察する力を養うことができると考える。

(3) 研究テーマに関わる評価

① ワークシートに資料から読み取った情報を基に記述する生徒の割合。

② ワークシートのアンケート項目「仲間と学び合う活動を通して、自分の考えや提案を見直すことができたか」の肯定的評価の割合が80%以上となる。

3 単元と指導計画

(1) 単元名

「第3章 日本の諸地域—④中部地方」（『中学社会 地理』教育出版）

(2) 単元の目標

- ・ 中部地方について、その地域的特色や地域の課題を理解する。
- ・ 産業を中核とした考察の仕方を取り上げた特色ある事象と、それに関連する他の事象や、そこで生ずる課題を理解する。
- ・ 中部地方において、産業の成立条件を、地域の広がりや地域内の結び付き、人々の対応などに着目して、他の事象やそこで生ずる課題と有機的に関連付けて多面的・多角的に考察し、表現する。
- ・ 中部地方について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとする態度を養う。

(3) 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・ 中部地方について、その地域的特色や地域の課題を理解している。 ・ 産業を中核とした考察の仕方を取り上げた特色ある事象と、それに関連する他の事象や、そこで生ずる課題を理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 中部地方において、産業の成立条件を、地域の広がりや地域内の結び付き、人々の対応などに着目して、他の事象やそこで生ずる課題と有機的に関連付けて多面的・多角的に考察し、表現している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 中部地方について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。

(4) 単元の指導計画と評価計画（全6時間、本時5／6時間）

次 (時数)	学習内容	学習活動	主な評価規準と方法
1 (1)	中部地方をながめて	<ul style="list-style-type: none"> ・ 中部地方の位置と自然環境を大観し、構成する県の名称と位置を白地図にまとめる。 ・ 中部地方で有名な農産品と工業製品について調べ、その分布を白地図にまとめる。 	知・技 三つに分かれる地域の地形や気候、日本最大の工業生産額などの特色を理解している。【ワークシート】
単元を貫く課題 中部地方では、なぜ各地に異なる産業が発達しているのだろう？			
		<ul style="list-style-type: none"> ・ 課題解決に向けての見通しを持つ。 	
2 (2)	中部地方の農業	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域によって作られている農産品が異なる理由について、諸資料を読み取りながら自然的条件や社会的条件から考察し、表現する。 	思・判・表 中部地方の農業の特色について、自然の特色や、交通の発達などを示す資料と関連付けて読み取っている。【ワークシート】

3 (2) 本時 2 / 2	中部地方の工業	・地域によって作られている工業製品が異なる理由について、諸資料を読み取りながら自然的条件や社会的条件から考察し、表現する。	思・判・表 中部地方の工業の特色について、自然の特色や人口や貿易、交通の発達などを示す資料と関連付けて読み取っている。【ワークシート】
4 (1)	中部地方の課題 単元の振り返り	・中部地方の産業の発展が人々の生活に与える影響や課題について考える。 ・単元を貫く課題に対する答えと自らの学びについて振り返り、ワークシートに記入する。	主体的に学習に取り組む態度 中部地方の産業の発展が人々の生活に与える影響や課題について主体的に追究しようとしている。【ワークシート】

4 単元と生徒

(1) 単元について

中部地方は、東海・中央高地・北陸の三つの地域に分けられ、それぞれの地域で異なる産業が発達している。これは、地形や気候などの自然的要因や人口や交通網などの社会的要因が関係している。この要因について様々な資料を基に考察することは、社会的事象を多面的・多角的に捉える上で重要である。また、現在これらの産業はそれぞれ異なる課題を抱えており、その課題をどう解決していくべきか考察することは、持続可能な社会の形成者として必要な資質・能力を育むことに寄与すると考える。

(2) 生徒の実態

教師の話を聴いて板書を写すことなどはできるが、資料を基に自ら思考して課題解決を目指すことは苦手な生徒が多い。そのため、授業では、生徒同士で資料を読み取ったり、小グループで互いに意見を出し合いながら問題に取り組んだりする場面を設定してきた。本単元でも、仲間と資料の読み取り方を確認したり、他者と考えを深め合う学習活動を設定したりしながら、より主体的・協働的に問題を解決しようとする生徒を育成したい。

5 本時の展開（令和7年10月24日実施）

(1) ねらい

資料を基に、地域によって作られている工業製品が異なる理由を自然的条件や社会的条件から考察し、説明できる。

(2) 展開の構想

- ① 効率的に追究活動を行うため、前時のうちに、学習班（4人班）の中で、「北陸」「中央高地」「東海」に分かれて、その地域で特定の工業生産が盛んな理由について調べ、まとめておく。そして、本時ではまず三つの地域に分かれてそれぞれが調べた理由を発表し合い、自らの考えを補充していく。（エキスパート学習①）
- ② 次に、学習班に戻り、それぞれの地域で特定の工業生産が盛んな理由について発表し合う。その後、地域によって作られている工業製品が違う理由について、今までに学習した地理的な見方・考え方も生かしながら、考察していく。（ジグソー学習②）

(3) 展開

時間 (分)	学習活動	◎教師の働き掛け ・予想される生徒の反応	□評価 ○支援 ◇留意点
導入 5分	○前時の振り返りを行う。 ○本時の課題をつかむ。	◎三つの地域で作っている工業製品が違うことを確認する。 ・なぜ地域によって作られている工業製品が違うのだろうか？	◇テンポよく、スムーズに語りかける。
課題 なぜ地域によって作られている工業製品が違うのだろうか？			
展開 35分	○「北陸」「中央高地」「東海」の三つの地域に分かれて前時に調べた内容を発表し合い、理由を考察する。 ○元の班に戻り、各グループで考察した理由について発表し合い、班の考察をまとめる。 ○全体で考えを深める。	◎エキスパート学習①を促す。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <ul style="list-style-type: none"> ・北陸では、冬の間積雪によって農業ができないため、冬の農家の副業として伝統的工芸品の生産が盛んになった。(地形・気候) ・中央高地では、戦争中に移転してきた工場がきっかけとなり精密機械工業が盛んになった。(歴史的背景) ・東海の内陸部では、労働力の豊富な大都市や、部品の輸送に便利な高速道路沿いに自動車工業が発展している。(人口、交通) </div> ◎ジグソー学習②を促す。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <ul style="list-style-type: none"> ・地形や気候などの自然的条件が関係しているのではないか。 ・人口や交通、歴史的背景などの社会的条件が関係しているのではないか。 </div> ・班の考察をホワイトボードにまとめる。 ◎「班の意見を発表しよう。また、質問や意見を考えながら聴こう。」	思考・判断・表現 資料を活用し、中部地方の地域的特色を、産業を中核とした考察の仕方をもとに多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。【ワークシート】 ○机間指導を行い、資料の読み取りや発表が苦手な生徒の支援を行う。 ○必要に応じて補足説明を行う。 ◇質問が出ない場合は教師から質問する。

<p>まとめ 10分</p>	<p>○本時のまとめと振り返りを記述し、ペアで発表する。</p>	<p>◎「ワークシートに本時のまとめを記入しよう。」</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分の言葉でまとめる。 <div style="border: 2px dashed black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>地域によって地形や気候などの自然的条件や、人口や交通、歴史的背景などの社会的条件が異なるため、作られている工業製品に違いがある。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> まとめを友達に説明する。 振り返りを行う。 	<p>思考・判断・表現</p> <p>資料を活用し、地域によって作られている工業製品が異なる理由を自然的条件や社会的条件から考察し、説明している。【ワークシート】</p>
--------------------	----------------------------------	--	--

(4) 評価

- 資料を活用し、地域によって作られている工業製品が異なる理由を自然的条件や社会的条件から考察し、説明している。【思考・判断・表現】

6 実践を振り返って（成果と課題）

(1) 実際の授業から（テーマに迫る手立てから）

① 生徒が主体的に学習に取り組めるような単元構成やワークシートの工夫

本単元では、まず、中部地方の位置と自然環境を大観し、構成する県の名称と位置を白地図にまとめた。次に、中部地方で有名な農産物と工業製品について調べ、その分布も同じ白地図にまとめた。すると、生徒たちは、3つの地方でそれぞれ盛んな産業に違いがあることに気が付いた。そこで、「中部地方では、なぜ各地に異なる産業が発達しているのだろうか？」という単元を貫く学習課題を設定した。そして、生徒が見通しをもって学習に取り組めるよう、単元全体を通して1枚のワークシートを使用した（図1）。また、生徒が主体的、効率的に追究活動を行うことができるよう、学習班（4人班）の中で、「北陸」「中央高地」「東海」に分かれて、その地域で特定の農産物や工業生産が盛んな理由について調べるジグソー学習を行った。

1. 単元の学習課題とその予想

中部地方では、なぜ各地に異なる産業が発達しているのだろうか？

(予想)
広くて天候もそれぞれ違うから、伝統文化も異なる。

2. 中部地方の産業

生産が盛んな農産物	盛んな理由 ※参考にした資料を記入すること
北陸 米 コシヒカリ 米菓	雪がたくま降りるため、豊富な雪が水があるから(7/11) 地理 P172 水田が広いから(農林水産省, 9/16) 日照時間 肥沃な土地 豊富な良質な水などの自然の恵みがあるから(2016年-17年 米産地産出の歴史 97頁) 米がたくまぬかぬかから(教科書 P227)
中央高地 レタス、セロリ、キャベツ、梨、りんご	標高の高い高原地域では、夏でも冷涼な気候を利用している(教科書 P224, P11, 12) 標高が低い所と低い所の寒暖差でつくれる (JA全農長野)
東海 Xロン トマト 葡萄	Xロン → 温器Xロンや電照栽培がされている トマト → ビニールハウスなどを利用して促成栽培を行っている(教科書 P222) 葡萄 → 日照時間が長いから(教科書 P227)

3. 単元の学習課題に対する自分の最終的な考え

気候(地形)が違うから、盛んな農産物が違う。近頃は気候や地形に合わせて(環境)立地(都市)に近い運搬(物流)花と運搬日本と太平洋で海に面している 自然環境 社会環境

4. 単元の学習課題に対する現時点での自分の考え

降水量や気温などの気候や山地にたり平野などの地形が違うから、それぞれ合っているように、盛んな農産物も異なるようになる。

5. 中部地方の工業

生産が盛んな工業製品	盛んな理由 ※参考にした資料を記入すること
北陸 機械工業 金属工業	工業地域では得意な少ない職工が多いこと、昔からの伝統工芸品と関係が深いこと 新潟県の燕三条地域は洋食器や刃物の産地として知られているから
中央高地 時計、カメラ 自動車部品 IC	戦中に移住して工場が工場が工場、その後は精密機械工業の技術士が電子部品やカメラなどを生産した(教科書 P224, P15, P17, P25, L1, L2) IC → 標高の高い高原地域から、空気が清いから(教科書 P227) 自然環境がよい、昔の産業の技術が受け継がれている
東海 トヨタ セブ(徳島) 自動車	鉄道や名古屋高速道路に沿って、東海工業地帯が発達している 藤原が徳島の町を作ったこと 富田の領地で稲花を栽培したこと トヨタは、世界を代表する大企業の一つとして発展してきている。

6. 単元の学習課題に対する自分の最終的な考え

よくて伝統文化や歴史・歴史・歴史が異なるから、豊富な自然資源が場所によって異なる(立地)自然環境

7. 単元の学習課題に対する自分の最終的な考え

北陸・中央高地・東海で気候や降水量、気温などの気候、山地や平野などの地形、人口が異なる立地、歴史・伝統文化がそれぞれ異なるから、産業も各地で異なる。 など

8. 学習の振り返り

評価項目	よくできてきたかった
1 資料を参照し、なぜ中部地方で異なる産業が発達しているの理由で考えましたか？	(5) 4 3 2 1
2 仲間と話し合う活動を通して、自分の考えを見直すことができましたか？	(5) 4 3 2 1
3 この単元の自分の学習振り返り、何を学んだか、成長したか、次の学習で振り返りたいことを記入してください。話し合いで自分の意見と異なるようになったり他の人の意見を聞いたりする経験があった。	

図1 生徒Aの単元を貫くワークシート

② 資料から読み取った情報を基に、仲間とともに多面的・多角的に考察する活動の充実

生徒Aを抽出生徒として、活動の実際を振り返る。生徒Aは、単元を貫く課題に対して、予想では「広くて天候もそれぞれ違うから、伝わった伝統文化も異なる。」と記述した。その後、農業のジグソー学習では中央高地を担当し、中央高地ではレタス、セロリ、キャベツ、白菜、果樹栽培が盛んなこと、その理由として「標高の高い高原地域では、夏でも冷涼な気候を利用しているから。」と記述した。エキスパート学習では、同じ中央高地を調べた仲間と意見交換を行い、扇状地などの地形が果樹栽培に適していることを学んだ。そして、学習班に戻り、北陸や東海を担当した生徒たちの発表を聞き、班で単元の学習課題に対して話し合いを行った。その結果、「気候と地形が違うから、盛んな農産物が違う。気候や地形に合わせた環境、立地（都市に近いほうが茶とか花とか運搬しやすい）、日本海と太平洋で違う。」などと記述した。これは、東海を担当した生徒が名古屋市などの大都市に近い渥美半島などで野菜や花などの栽培が盛んなことを発表したことから、立地も関係していると班で結論付けたことが推測される。

生徒Aは、本時の工業のジグソー学習でも中央高地を担当し、中央高地では時計、カメラ、電気部品、プリンターの生産が盛んなこと、その理由として「戦争中に移転してきた工場がきっかけになり、その後は精密機械工業の技術を生かして電子部品やプリンターなどが生産された。」と記述した。エキスパート学習では、同じ中央高地を調べた仲間と意見交換を行い、長野は多くの高速道路が走っていて部品の輸送に便利なこと、空気がきれいなこと、昔の産業の技術をうまく利用していることなどを学んだ。そして、学習班に戻り、北陸や東海を担当した生徒たちの発表を聞き、班で単元の学習課題に対して話し合いを行った。その結果、「そこで伝えられた伝統や歴史、地形が異なるから。豊富な自然の資源が場所によって違うから。」などと記述した。これは、北陸を担当した生徒が昔からの技術や伝統を生かした工芸品づくりが盛んなこと、東海を担当した生徒が、かつて盛んだった繊維工業を生かして自動車産業が発展したことなどを発表したことから、このような班の結論を導き出したことが推測される。

これらの活動を経て、生徒Aは、単元の学習課題に対する自分の最終的な考えに対して、「北陸・中央高地・東海で天気や降水量、気温などの気候、山地や平野などの地形、人々が集まったりする立地、歴史、伝統文化などがそれぞれ異なるから、産業も各地で異なる。」と記述した。単元の予想では、天候や伝統文化にしか触れられていなかったが、資料から読み取った情報を基に、仲間とともに考察する活動を通して、より多面的・多角的に思考することができたと考える。

(2) 研究テーマに関わる評価

① ワークシートに資料から読み取った情報を基に記述する生徒の割合

本時のワークシートを評価した結果は、次の表1の通りであった。この結果から、多くの生徒が資料を活用し、地域によって作られている工業製品が異なる理由を自然的条件や社会的条件から考察し、説明することができたと言える。ただ、努力を要する生徒もいた。これは、自分の最終的な考えをまとめる際に、どうまとめてよいのか分からなかったことや、まとめる時間が短かったことなどが原因として考えられる。

表1 ワークシートの記述から（評価）

評価規準	A (十分満足)	B (概ね満足)	C (努力を要する)
資料を活用し、地域によって作られている工業製品が異なる理由を自然的条件や社会的条件から考察し、説明している。 【思考・判断・表現】	12人 (42.8%)	15人 (53.6%)	1人 (3.6%)

② ワークシートのアンケート項目「仲間と学び合う活動を通して、自分の考えを見直すことができたか」の肯定的評価の割合

本単元のワークシートを評価した結果は、次の表2の通りであった。多くの生徒が5（よくできた）の肯定的な評価（88.5%）をしており、本単元においてジグソー学習やエキスパート学習を通して、仲間と「なぜ中部地方では各地に異なる産業が発達しているか」を考察する活動が、自分の考えを見直すことにつながったと生徒たちが感じたことが分かる。仲間と学び合う活動の良さに多くの生徒が気付くことができたことと推測される。

表2 生徒へのアンケートから（結果）

質問項目	5	4	3	2	1
仲間と学び合う活動を通して、自分の考えを見直すことができたか	23人 (88.5%)	2人 (7.7%)	1人 (3.8%)	0人	0人

（※5よくできた→できなかった1）

(3) 今後の課題

① 生徒がより自分事として考えられる単元構成や学習課題の工夫

本時では、生徒が主体的に学習に取り組めるよう、単元の初めに生徒と一緒に単元を貫く課題を設定したり、今後の学習活動について見通しをもてるようなワークシートを作成したりする工夫を行い、一定の成果は出たが、それだけでは不十分であると感じる。生徒がより主体的に学習に向かうためには、学習課題に対していかに自分事として考えられるか、学習課題が自分にとってどのような価値があるのかが分からないといけない。そのため、今後は単元の導入時に学習課題と自分との関わりを考えさせたり、この課題を解決することでどのような社会的な資質・能力が身に付くのかを生徒と共有したりする時間を設けるなどの工夫をしていきたい。

② 多面的・多角的に考察する学習活動の充実

本単元では、自ら資料を探し、3つの地方の自然的条件、社会的条件から考察することで、多角的な思考ができた。また仲間と学び合う活動を通して自分の考えを見直し、自らの学びを深めることができた。そのため、このような学習活動をさらに充実させていくことに努める。ただし、今回は最終的な結論が少し抽象的になってしまったので、今後はより根拠や理由付けを明確にし、分かりやすく説得力のある結論を生徒全員が書いたり話したりできるよう、ワークシートの書き方や話し合い活動の仕方を工夫していきたい。

<参考文献>

- ・文部科学省.『中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 社会編』.東洋館出版社.2018.
- ・国立教育政策研究所.『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料【中学校 社会】』.東洋館出版社.2020.